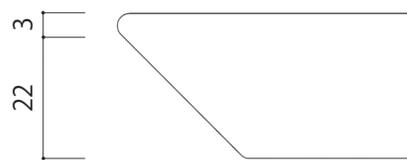


源平

樹種：京都府内産 スギ
仕上げ：クリアオイル



木端断面 詳細図



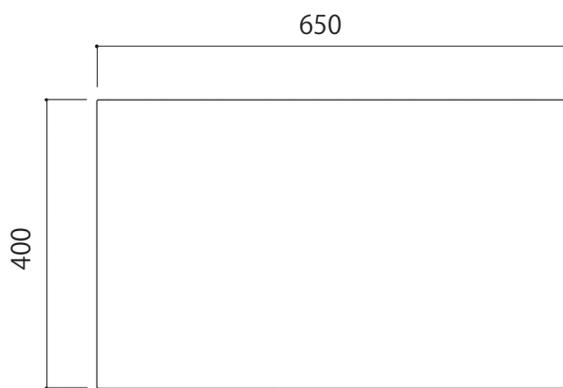
単体で自由に



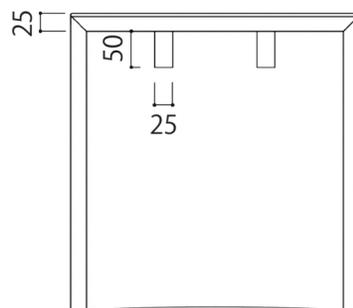
赤身側を合わせ並べると、
両面使いのベンチになる。
留を丸めているので、座り
心地も良い。



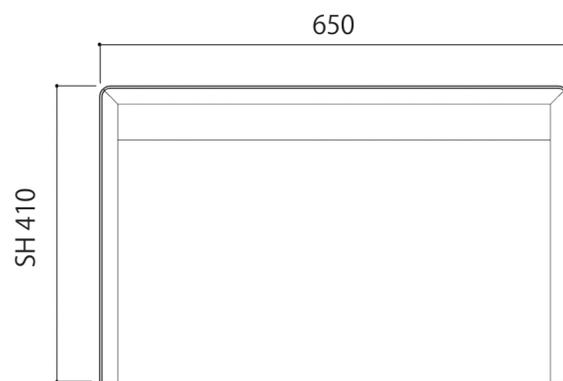
白太のラインと、木端の
薄くなめらかなラインが
際立つ。



上面図



断面図



正面図



側面図

スギの源平材の赤身を外側に白太を内側にして2枚を接ぎ、その一枚の板から、椅子を作りました。脚から座面、そして反対の脚へと白太のラインが流れます。材料としては通常好まれない源平材を活かし、この椅子のアイコンとしました。座と脚の接合部は留で繋ぎ、その角を丸める事で、白太のラインの繋がりは元より、全体の木目の流れを楽しめます。またその丸みは、自然と撫でたくなる様な柔らかな質感を湛えます。木端を大きく削ぎ落とし、残した3mmを丸く滑らかに整える事で、全体を引き締めるシャープなエッジを与え、針葉樹の静謐でありつつ優しい印象を際立たせました。また、人が触ったり傷ついたりしやすい外側に、材の中でも強度の出る赤身を、お尻が乗る中心には柔らかい白太の部分を使用しているため、使い込む内に、さらに優しい丸みを帯び、味わい深くなるでしょう。座面の幅は座った時に横に荷物が置ける様、650mmと少し長めにしています。複数の椅子を赤身側が接するように並べていくと、両側から使うことができる赤身と白太の縞々の長いベンチになります。脚と脚が接するように並べると、白太のラインが緩やかに流れながら通り、新たな表情を見せるでしょう。商業施設の場合、様々な年代、状況の方の使用が考えられます。車椅子の方が荷物置きとして利用される事等も想定し、座面は地面と水平に、四方どこからでもアプローチできる形状が好ましいと考えました。その上で、スギが持つ柔らかな性質を座り心地へ、赤白のはっきりした木肌をデザインと構造へ活かした「源平」を提案します。

